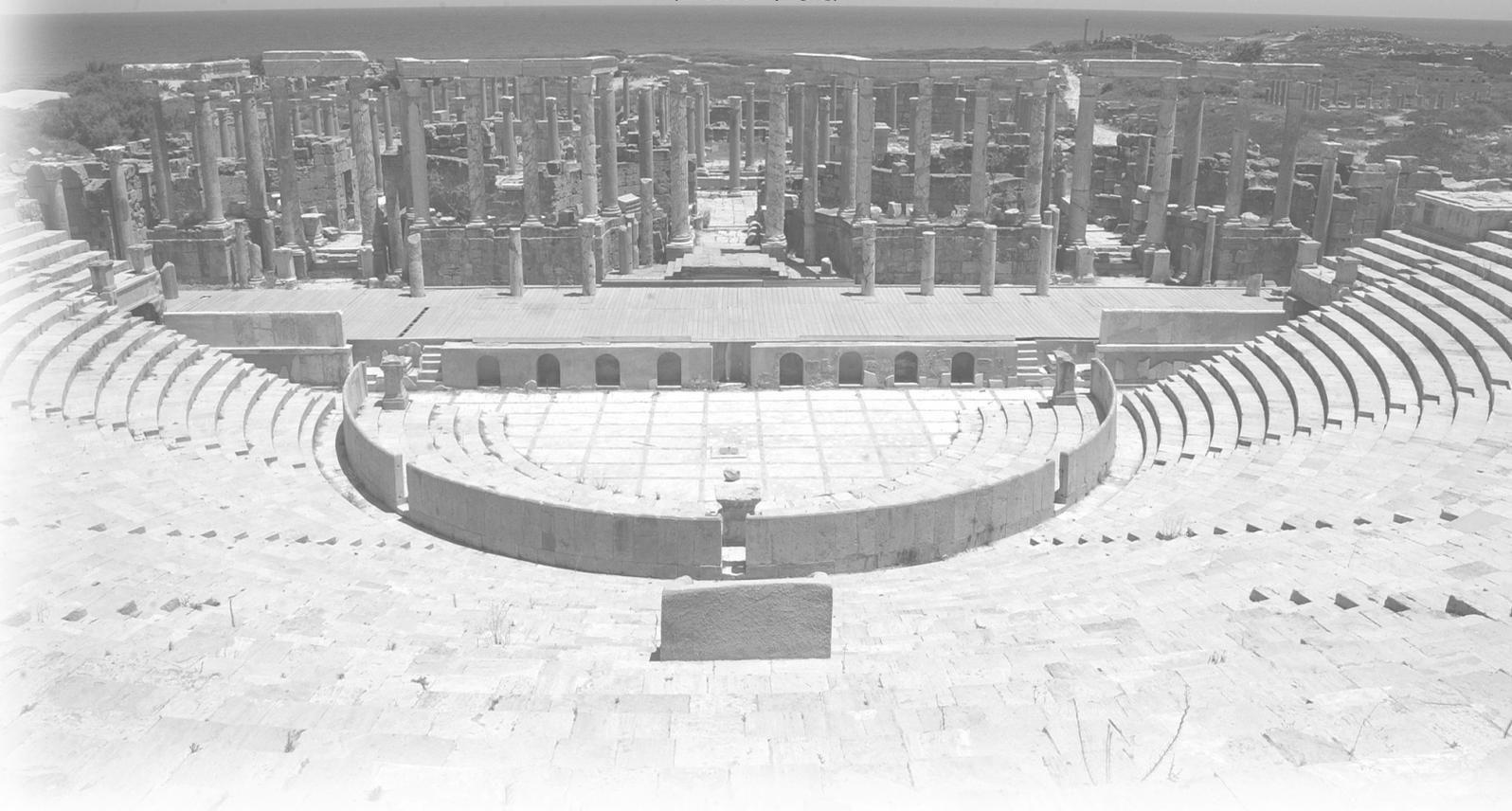


サイバー大学紀要

Cyber University Bulletin

第1号

(2008年度)



サイバー大学

サイバー大学紀要の刊行にあたって

吉村 作治

サイバー大学・学長

大学の存在価値は、教育と研究が車の両輪となって進むことにある。大学、特に私立大学に於いては、教育に力を入れるあまり教員の研究に無関心となる傾向がややもするとあるが、私は、研究は個人の興味を満たすこともさることながら、教育の原資となるべきだと考えている。俗に、良き研究者は教育者としては適合しないとか、良き教育者は研究者として、ぱっとしないなどと言われているが、大きな間違いである。大学の教員は研究者としても世に認められるべきで、自らの研究を学生に伝授してこそ、真の大学教員といえるのである。

研究者として認められるためには、研究費を外部から導入しなければならない。それは、学生の学費の大部分は教育費用に充てるべきだからである。そうでなければ、学生の利益に反することになる。そして、外部の資金を導入した研究成果を大学の紀要に発表したり、自ら所属する学会誌に公表するなどして世に信を問うことで、大学教員の存在価値が出るのである。

2009年4月から、本学にも研究機構が立ち上がる。各先生方には自らの研究プロジェクトを設定していただき、分野によっては他大学や他の研究機関の方々と共同で研究調査を行い、その成果を今回創刊となった本紀要に発表していただきたい。このことで、本学学生に誇りを持ってもらい、本学の価値を広く世に知ってもらう第一歩としたいと思っている。

研究機構発足と時を同じくして本学の紀要が刊行されることを大変嬉しく思うと同時に、今後、紀要では掲載できないテーマや、本学の発展に寄与する提言、先生方の体験を著すものといった媒体が必要になってくるに違いなく、それに沿った対応手段を作っていかなければならないと考えている。

ともかく、本学が研究面に於いても第一歩を踏み出すことができたことを、本紀要の編集委員の先生方、職員方に感謝したい。

目 次

サイバー大学紀要の刊行にあたって	吉村 作治 i
------------------------	-------	---------

研究論文

SaaS (Software as a Service) と情報セキュリティ	前川 徹 1
多項式関数を関数値から決定する諸アルゴリズムの比較	野崎 昭弘 15
未完成巨像の地下で発見された文字と赤線に関する建築学的考察	遠藤 孝治 33
“越境” する文化 — 対馬海峡島嶼部における縄文晩期から弥生時代にかけての様相 —	俵 寛司 53
Flannery O'Connor's New York Stories: “The Geranium” and “Judgement Day”	坂本 美枝 77
税務の面からコーポレート・ガバナンスを確立することの利点と課題 — 税務リスク共有による責任の所在の明確化とタックス・プロモーターの摘発 —	庄司 一也 89
ボランティア体験学習の質が高校生に与える心理社会的影響	新垣 円107

研究報告

カンボディア王国アンコールにおける地下水揚水問題	岩崎 好規129
世界遺産の現状と課題 — 世界遺産教育の重要性 —	古田 陽久149

短 報

地域限定ワンセグ放送と携帯電話を利用するモバイル教育	石田 晴久・久保田達也・勝 眞一郎171
Autonomy & Motivation in Distance Learning	ロバート ツビトコビチ・坂本 美枝173

解 説

モバイル機器の本学学習環境への適用	川原 洋181
ヨーロッパにおける博物館展示の現状 — オランダ・ライデン古代博物館のエジプト・コレクションを事例に —	和田浩一郎187